

FIWC 関西の「慣習法」

{これは、今村に反映した「法」であって、当然、人
格が変れば別の見方で法が立てられるはずである。}

1. 我々は自らの集団を「フレンズ国際労働キャンプ (FIWC) 関西委員会」と呼ぶ。

<注> 「フレンズ」とは「友会の」という所有格を意味しない。AFSCOから発生したという歴史事情でこう言われているのでもない。「人間皆兄弟」という原理を我々に伝達した生みの親の名で表わすのである。この集団を例えば「関西平和労働キャンプ」と呼んだ方がいいと考えるのか？AFSCOからの分離の際、AFSCO側の“F”の名をとれという要請を拒否した我々の仲間、むしろ主体性を感じる。大体、AFSCOと機構的に離れるから“F”という名は取るべきだという発言は、およそ、友会徒（クウェーカー）的でないとは私は考える。関東委員会との関係を、主として時間的な関係として考えられる東京友会が、関東委員会に拒否されるのは当然である。友会徒として、FIWCとの関係を、私はこう考える。「友会徒は自ら進んで自治集団FIWCに加担し、その責任を自らの責任としてひきうけるという形でつながるべきである」と。

2. FIWCという集団を組む理由は、全ての人と私的につながろうという志の故である。全ての人と一人一人、日常性において隣人としてつながろうとすることである。いゝかえれば、我々の目的は「共同体」の創成にある。

<注> FIWCの窮極の目的を「福祉国家」「文化国家」などというつまらぬものに置くわけにはゆけぬ。その「福祉」「文化」とは「衣食住」のことにすぎ

ぬ。「社会保障」とは私の言葉でいえば、「国家保障」である。「国家保障」に任すとは、自らの隣人に対する私的責任を抜きにした上での話しである。我々の「窮極」の目的とは私的責任において隣人とつながることではないか。

3 我々はFIWC「個人」の「主体的能動性」(ボランティア)を基礎とし、国家を超える平和の軍隊(組織された集団力)と考える。この為のいかなる活動にもFIWCのコールサインを用いることが許される。

<注> 労働キャンプをいわゆるセトルメントなど分けられる機能形態を考へるべきでない。客体化された労働キャンプとはこの様を一つの「形式」にすぎぬかもしれぬが、主体的に見ればこれはいかなる機能も含みうる「平和の自願軍」である。その意味で「自願軍」の近い先例として、八路軍、ベトコン、FLEN、カストロ、日本の無教会、古神道、平和の先例として、ガンヂと彼の弟子(特にヴィノバ)、日本文化の中では山岸会、初期玄洋社の流れをくむ杉山竜丸氏等を知るべきである。(私はMLキングの「非暴力」をかわぬ。彼の「非暴力」はカーマイケルの「暴力」に超えられているがそれを認めていない。MLキングの正當な名は「白人国家」内の「穏和派」にすぎぬ。)

<注2> 日本SCIIの「目的」を抄録する

- (1) 人間の尊厳を破壊する一切の試みを防止する新しい人間精神を拡大すること。
- (2) 同志的結合に関する訓練の場所提供。
- (3) 自発的奉仕者による国際的な实际的援助活動。
- (4) SCIIをもって窮極的には国軍に置き換える。
- (5) 徴兵制国家では良心的兵役拒否の権利を認めさせること。

以上のSCIIの「目的」は明らかに翻訳である。私は日本SCIIが国際SCIIの

可分不可欠の構成要素として自らの体験の中から、世界の S C I 運動に、国際労働キャンプ運動に「何か」をつけ加えることを祈る。北森嘉蔵の「神の痛みの神学」は明らかに、日本国民（土民）教会が世界教会の必須不可欠の一部となっている証拠を見せている。我々もかくありたい。

4. F I W O はいかなる人にも開かれている。F I W O は可能性において普遍的な集団である。だから、当然「除名」（破門）は F I W O にはない。

<注> 「除名」権をもつ集団は「人間皆兄弟」などと言ってはならぬ。シモーヌヴェイユはマリアとの面接体験（靈的体験）を得たので「カトリク」（普遍教会員）と自覚する。彼女を指導した神父がいわゆる「カトリク教会」への入会を勧めると、彼女は拒んだ。なぜか？真に「カトリク」たらしとするものは、「破門権」をもつ「カトリク教会」の外にいなければならぬというのである。「友会」もまた本来は自発的に形成される。可能性において「カトリク」である教会である。我々が「友会」から受けるべき伝達は、組織となってしまった「友会」ではなく、初心の「友会」であるべきだ。その「初心」の伝達を得ている限り、A F S C が、眼に見える「友会」が何といおうと、我々は F I W O と名乗って恥じる必要はない。まことに身近な先例がある。日本文化が生んだ無教会であり、日本の左翼が生んだ「大正行動隊」、京都田中部落の自立学校の経験である。自発的集団の体験は欧米よりも強く「肉体信仰」の文化をもつ我々の方が豊かであると私は考える。我々に多くのものを与えてくれた欧米文化に、我々が「お返し」できるのはこの点ではないかと考える。

5. F I W O はボランティアによって支えられる。だから多数決、選挙制度も

ここでは無用である。「理事会」は一年以上、「委員会」は一年の年期中
FIWC 関西委の世話人を買って出る者によって構成される。

<注> FIWCのボランティアには特別な「権利」はない。たゞ自発的にひき
うける「責任」のみがある。FIWCの代表者は選出されるものではなく自らそ
の責任を買って出る者が「なる」のだ。FIWCという名で行なわれた集団行動
の一切の責任を自分にとるといふ者は、代表者でありうる。だから、代表者は一
人とは限らぬ。何人いてもいい。「Volunteer」とは私の母語で言えば、ひと
の世話を買ってでる者、公的責任においてとる者という意味で、「世話人」「責
任者」といいたい。ボランティア集団においては、「責任」の体系のみがあつて、
「権利」の体系は本来あり得ぬ。「委員」とは「オレに任せてくれ」といひだし
た者、「リーダー」とは自分のある事に対する切実さの故にひとに呼びかけ、ひ
とを「ひっぱって」ゆかずにおれぬ者の意味である。他人に委任されて「新権利」
をもつ者とか、組織が任命した「監督」という意味ではない。

多数決も選挙制度も、参加一人一人の能動性の差異を無視している。ボランテ
ィア集団では能動性の強固な者は一人でも百人を説得しうる。そのダイナミック
スがAFSCから教えられた「全会一致」の真の内容であろう。

6 委員会費を払う者は、財政ボランティアであつて、その事によっていかな
る権利も発生しない。

<注> 労働ボランティアと財政ボランティアとはしばしば同一人物であるが、
分けて考えなくてはならぬ。委員（世話人）は財政ボランティアの中からのみ出
現するものではないし、FIWCの情報を求める者は必ずしも財政ボランティア
でなければならぬといふ事はない。財政ボランティアについては、創価学会財政

の例を参考にせよ。

7 FIWC参加者の活動費は原則として個人負担である。

<注> 「奨励会」制度を設ける事に私は反対ではないが、それはFIWCなる「組織」が個人に交付するものではない。参加者相互が話し合いの上で融通しあうものである。広島には公式派遣者に半額交付とし報告書提出の義務の規定があるが、私はこのような規則分化に関心はない。むしろ原則として個人負担、報告書提出は個人の主体的能動性において奨励しあいたいと考える。

8 FIWCは世間期待するような「組織」ではないが、時間空間両面にわたって「公的」性格をもつ集団である事を忘れてはならぬ。

<注> 「人間皆兄弟」という以上、時空を超えた未知の「兄弟」を意識の内に置かねばならぬ。未知の「兄弟」との関係は「公的」なものである。それ故に我々は仲間内の言葉を用いてはならぬ。(外国籍参加者のために「お知らせ」に英文を加える事をすすめる。)

しっかりした記録を残さなくてはならぬ。「責任の所在を明確にしなくてはならぬ(FIWC関西の主体たるアドレスと責任者個人名を明記する事)言葉を媒介にできぬコミュニケーションのために「黙想」を重視せねばならぬ。(これは我々の生みの親「友会」の沈黙礼拝の形式をうけついでにすぎぬとは私は考えぬ。カーマイケルと彼に拒否された「白人」デリンジャーは「黙想」を通してしかむすばれないではないか。)

最後に私の「土民」の意味を附して置く。

「土民」とは部落共同体にかゝわる言葉だから、「個人」そのものではないが、「土民」の目には地上を一周するムラとムラと連続は見えても「国家」は見えぬ。この事を重視したい。

また、「土民」にはその彼が立つ「土地」「風土」「文化」にかゝわる彼との「関係」が見える。日本の「土民」は日本国民とは必ずしも重り合わぬ。在日朝鮮人もアメリカ国籍の人間も日本「土民」たりうる。

これに比して「市民」なる日本語は抽象的である。自らが立つ地点を明確にしなくてすむ「国際市民」などが考えられるからだ。ポール・ロブスンが「私はここに立つ」といふ、自覚した部落民は「我々は部落の民なり」と日々記して、多数派（アメリカ「白人国家」の白人、日本の中産階級）の「同和思想」を拒絶するのは、この土民たる故である。ヴィノバは中印紛争の際、座して中国軍の侵入を待ち、こう言った。「中国のもの、インドの土地というものはない。土地は神と人民のもの」と。この「人民」は私の「土民」である。

人間は「土民」として生れる。「国民」は仮空である。「市民」は抽象的である。

—事務上の了解事項—

1. 委員会は連絡調整の事務を受けもつ世話人会である。

各種の各委員会（例えばFIWC関西委。常委。理事会。阪大FIWC間）の関係は上部< >下部の構造をもつのではなく、世話の範囲、役割の違い

があるだけである。

委員会の役割

- イ FIWC 関西の名の下で行なわれた行動に関する対社会的責任
- ロ 会計。(会計, 会費収集, 予算, 決算)
- ハ 委員会議(世話人の打合わせ会)の実施
- ニ 渉外(兄弟, 他団体との連絡事務)
- ホ キャンプ企画(募金等の計画を含む)
- ヘ 記録, 資料保存
- ト 財産の管理
- チ 広報
- リ 組織(Organizing)(「会員」「OB」「参加者」に関する事務)

3. 現状の構造

- イ 常任委員会
- ロ 理事会
- ハ 委員会
- ニ 「学内」サークル
- ホ FIWC 連合(RC)
- ヘ 「全国労働キャンプ連合」

4.

- イ 委員会代表者(委員長, 理事長)
- ロ 会計(会費収集, 出版物会計)
- ハ 委員会担当(委員会議の開催等事務。渉外, 「会員」事務)
- ニ キャンプ計画(交流の家建設計画。その他のキャンプ計画。資金—募金等

—計画)

ホ 交流の家書記局 (法人化, 家の管理運営, 記録, 資料整理, 保存)

ヘ 交流の家会計 (寄附等の管理, 記録, 決算)

—cf— 毎年の恒例行事 (例 夏の長期キャンプ)

5. キャンプについて (リーダーのすること)

イ 事前

a 20日前 (短期キャンプの場合)

キャンプ地の現状調査 (仕事の打ち合わせ) 雨の日のふりかえ作業, 日取り, 寝具, 食事, 入浴, 必要な道具, 利用できる道具, 詳細な道順, プログラム立案, 付添衣類, キャンプ地の責任者, 接渉相手, 接渉すべき近隣社会の人の住所, 電話, 氏名の確認。

b 15日前

i) お知らせ作成, 発送

—cf—

(1) 短い英文も附加 (外国人参加者のために)

(2) 発送先, 会費納入者, お知らせ請求者, キャンプ地, 兄弟友好団体, 資料保存所。

ii) 申込者確認。日程。道具, 寝具, 料理, 器具の準備。名札の準備。

ロ キャンプで

相互自己紹介 (名前遊び etc も考える)。参加費の収集。名簿記入 (学校入卒年度, 生年, キャンプ内での友人等含む)。日程, FIWC, 奨励金制度, 黙想等の説明と参加者の提案を求める。料理, 掃除……当番を決める。反省会。

ハ 事後

持参した道具等のリストを照合、確認。キャンプ地責任者と話し合い。礼状を出すこと。会計予備、名簿、報告書、文集の作成、それらを参加者及び委員会、友好団体、記録保存所へ渡す。

—cf—

FIWC連合の資料、記録保存所は二ヶ所（二部送ること）

- ① FIWC関西委内
- ② FIWC関東委内

お知らせ、礼状、報告書には必ず年月日、委員会のフルネーム、その住所、責任者個人名を明記すること。封筒についても同じ。

(追加)

写真記録を必ずつくること。（フィルム、アルバムを委員会記録係に提出すること。）

(追加) 広報出版物としては

- ① FIWC連合統一リーフレット
- ② キャンプ風信（ニュース紙）
- ③ シャペル（理論誌）
- ④ 一輪車（感想文集）
- ⑤ もっこ（連合ニュース誌）
- ⑥ むすび（交流の家運動機関紙）

フレンズ国際労働キャンプ関西委員会

奈良市中町 39 交流（むすび）の家

Tel 0742-44-0776

1968, 6, 15 第 1 刷
1970, 6, 14 第 2 刷
1972, 8, 15 第 3 刷 (1000)

印 刷 交流（むすび）の家印刷局